

小宿ぬ

八月踊唄

はじめに

一九八〇年（昭和五十五年）に、小宿の八月踊りの歌詞集を発刊しましたが、大変未熟で、内容的にも大変粗雑なもので、唄のもれ、歌詞の間違い、方言の表記の不適切さなどいろいろ指摘をいただいたり、後で気づいたりということがありました。

シマの八月踊りを活字として記録することの難しさを痛感したものです。

あれから十二年余、この度、小宿の八月踊りのビデオを制作する運びになったのを機会に、これまでの歌詞集を見直し、手を加えて、再刊することにしました。

奄美には、歌題が七十種ほどあるようですが、その中から、前回発刊した唄を中心に、一部訂正、あるいは新しく挿入など、内容的に改善をし、当集落で唄い踊り継がれている十九題と共通歌詞を記録することにしました。

私たちの祖先が残した素晴らしい唄と踊りを伝承・保存し、更に発展させるための一助にでもなれば幸甚です。

目

一	座唄 <small>いり うた</small>	1
二	あらしやげ	3
三	三儀山ぬ胡弓くわ <small>さんぎやま きようきよう</small>	5
四	嘉徳ほべなべ	5
五	赤木名観音寺	6
六	玉乳くわ <small>たまぢ</small>	7
七	西ぬ実久	8
八	曲りよ高峰 <small>まが たかちぢ</small>	9
九	おーほびの	9
十	あがんもーら	10
十一	ちくでいんぐわ	11
十二	しゅんかねくわ	12
十三	ほこらしや	13

次

十四	浜千鳥 <small>はまちぢゆら</small>	13
十五	でんまち女 <small>じよ</small>	14
十六	浦 富	15
十七	伊平屋ぬ按司ぎやま <small>いへや あじ</small>	15
十八	芋ぬ葉ぬ露 <small>うん ちゆ</small>	16
十九	今ぬ踊り	17
◇	共通歌詞	18
◆	雑の部	26

表紙絵解説

嘉永二年（一八四九年）に起きた、薩摩藩のお家騒動「お由羅騒動」に連座して、翌三年三月に小宿へ遠島された上流藩士、名越左源太が安政二年四月まで、まる五年間、当時の島民風俗を写生した絵図の一部分である。

郷土史家 亀井 勝信

一座唄 いり うた

1 今日ぬ吉日けぶ よかろひに ハレ祝よーちきいていおせろ

(女性の囃子) ハーラーオーセーオーセー

ハレ今日けぶからぬ先や ハレ大祝おーよーばかり

ハレヨーヨンノー

ヤレ今日けぶからぬ先

(女性の囃子) ハーラーオーセーオーセー

ハレ今日けぶからぬ先や ハレ大祝おーよーばかり

ハレヨーヨンノー

2

おーよー

大祝する中に ハレなかじるばいしてい

(男性の囃子) アレイガオーソレマーター

ハレうれいがしゆたる加那や ハレしゆたるなさけ

ハレヨーヨンノー

ヤレうれいがしゆたる加那

(男性の囃子) アサトノヘットコボツクワ

ハレうれいがしゆたる加那や ハレしゆたるなさけ

ハレヨーヨンノー

3 夜明け白雲ぬ 生き別れ見れいば

さとうとう生き別れ うれいがごとに

4 八月はちがちや寄ゆていきゆり 振り袖すでいやねらぬ

あみしやれいがみ袖すでい からしたぼれい

5 座いしゆてい唄しれいば 股ももだるさやしが

でいわきや振り立ていてい み袖すでいふらそ

二 あらしやげ

男 オーヤレヤレ

けぶ よかるひ よお

今日ぬ吉日に祝ちきいていおせろ

けぶ

ハレ今日からイオセマタ

おーよー

大祝ばかりヨンノ

けぶ

ハレ今日からぬ先

女 ハラオセオセ

おーよー

大祝する中に なかじるばいしてい

ハレうれいがしゆたる加那や

しゆたるなさけヨンノー

三 三儀山ぬ胡弓くわ
さんぎやま きようきよう

三儀山ぬ胡弓くわ ヨーハレヨニ才達
さんぎやま きようきよう にせんきや

用ぬ胡弓くわ おせきもさげー
よん きようきよう

大和がれいとうゆでい 来年ぬこねだ
やね

四 嘉徳ほべなべ
かどく

1 嘉徳ほべなべや 言告げぬ煙草よ
かどく ことつ

ハレ 真玉言告げぬ 睦れい煙草ヤソラ
またまことつ むち

2 縁いんとう玉黄金たまくがね ぬしだもそいきゆりよ

ハレ うちふらいふらい

3 うちふらいふらい ぬしだもそいきゆりよ

ハレ 恋ぬやりよば しげくしたぼれいヤソラ

4 恋ぬやりよば しげくしろにしれいばよ

ハレ 他所ゆすが目ぬうくさ 口恐くちゆうるしやヤソラ

五 赤木名観音寺

赤木名観音寺や 伊津部いちぶかちなおそ

なおそなおそ ヤーヨイサ な音なうばかり

六 玉乳くわ

たまぢ

1

玉乳たまぢくわや たまたましハレ

なぶら乳ぢば 出いじやしハレ

なぶら乳ぢば 出いじやしハレ

たぶりふらしゆんどうヤソラ

2

玉乳たまぢかちむいれいばハレ

染すだるよりまさりハレ

後ろ軽々とうハレ

いもれいそしらヤソラ

七 西ぬ実久

さねく

1

西ぬ実久さねくなんていよ 大和船やまとぶねぬ割れたしや
浦とうれいれいとうれいれいよ お金お金とうむいろ

2

西ぬ仲原主やよ 恥はづかきれいてい仲原
ううれいがしゆたる役や 佐和伊主さわいしゆに取とられいてい

3

佐和伊主さわいしゆや大和 松女まちじよくわや大島
黒潮隔くろしゆふえぎむえとうていよ 思おもぬ思おもぬ苦くちさ

八 曲りよ高峰

まが たかちぢ

まが たかちぢ
曲りよ高峰に 提灯ぐわば灯ぶし
まが たかちぢ

提灯ぐわば灯ぶし

囃子 提灯ぐわば灯ぶし

うれいがおーあがりに 忍でいまたいもれい

忍でいまたいもれい

九 おーほびの

おーほびのーやー ハレおーほびんのー

囃子 おーほびのーやー ハレおーほびのー

いんやーむかいのー あのあのみまーあせちえんせ
ひんやせーのー あのーおせちえんの花
花お酒

十 あがんもーら

1 あがんもーらあーぐーくわ 雪むらぬ歯ぐきよハレ

きやんむえ 気病ばなーしゅーていー ゆ 呼ばし ちゆみち 一道

2 きやんむえ 気病ばなしゅてい かまちささいささよハレ

あんま 母ふれいむんや ゆたばちきいてい

十一 ちくでいんぐわ

1 ちくでいんぐわぬ節ぶしやよハレ 投なぎれいばどう清きよらさ

上うぬ屋やぬ家やーぬ ひやぬがやーさんせ

せーやーさんせーおせ

したるがせんするやーせんする

2 そういき主ぬしや 大和おほから衣い装しよ買こいが

衣い装しよやなちくえむんど 芸ぎ妓こ女じ郎よ買れいが

エーオカゲンソーヤー

衣い装しよやなちくえむんど 芸ぎ妓こ女じ郎よ買れいが

エーオカゲンソーヤー

十二 しゅんかねくわ

1 しゅんかねくわが節や 吾がくなしおせろ

三味線持むちいもれい ちつきていおせろ

さあしゅんかねくわ

三味線持むちいもれい ちつきていおせろ

さあしゅんかねくわ

2 みちんびら道平クネンボ木 やねな来年実れいクネンボ木

やね来年ぬ時節うりきあうてい むりがきようろ

さあさしゅんかねくわ

十三 ほころしや

今日ぬほころしやや けぶ 何時よりもまさりハレ いち

何時も今日ぬごとに いち あらしまたたぼれい けぶ

はまちじゆら

十四 浜千鳥

1 千鳥 ちじゆら 浜千鳥 はまちじゆら ハレ な 啼くな浜千鳥 はまちじゆら

ハレ な 啼くな浜千鳥 はまちじゆら

囃子 な ハレ な 啼くな浜千鳥 はまちじゆら

啼きいば面影ぬハレ な 勝ていまたたちゆり まさ

ハレ勝ていまたたちゆり まさ

2 千鳥 ちじゆら 浜千鳥 はまちじゆら ハレ 何故 ぬが 汝 いや や啼 な きゆる

あんま 母面影 な ぬハレ たちどうまた啼 な きゆる

3 あんま 母面影 とらぎごらぎ やハレ 時々 とらぎごらぎ どうたちゆる

わか 吾加那面影 な やハレ朝 しかま 夕 よ たちゆる

十五 じよ でんまち女

傘 じよ を忘れたヨイヨイ でんまち女 じよ が宿に

とらぎ さきじかぶる時 とらぎ や 思い出し とらぎ めりハレ

とらぎ かぶる時 とらぎ ヨイヨイ とらぎ かぶる時 とらぎ さきじ

とらぎ さきじかぶる時 とらぎ 思い出し とらぎ めりハレ

十六 浦 富

うら とうみ

浦富 踊りくわや うらとみうらう いきやしがや 踊りゆうる うらとみ

いきやしがや 踊りゆうる うらとみ

囃子 ひじやり いきやしがや 踊りゆうる うらとみ

左足さでいてい ひじやりはぎ 右股たたせ みぎりもも 右股たたせ みぎりもも

十七 伊平屋ぬ按司ぎやま いへや あじ

伊平屋ぬ按司ぎやま いへや あじ 童按司なれいば わらわあじ

吾家ぬ殿地庭によ このち お草めやさめろ

十八 芋ぬ葉ぬ露うん ちゆ

1 芋うんぬ葉ちゆぬ露まだまや 真玉まだまよりきよらさ

真玉まだまよりきよらさよ 貫ぬしやり貫ぬしやり はさりよ

真玉まだまより真玉まだまより 真玉まだまよりきよらさよ

貫ぬしやり 貫ぬしやりはさりよ

さおせしゆてい さよまちゆてい さよま

なかじるあわしてい 唄うたまちゆり 加那かなまちゆり

2 加那かな待ちまちゆる夜よや 側戸そばやどば開ひらけてい

夜よ嵐あらしやししげくよ 加那かなや加那かなやねらぬ

十九 今ぬ踊り

1 今ぬ踊りは 踊り子がそろた

ソレ いじていらん子が いじりたがる
ヤイキヨラサ ヤイキヨラサ
花キヨラサ ソーシヤンサンへ

2 うりしよみぎたろ 若松様よ

枝も栄えて 葉も茂る

3 合てのげわん手拭てのげに 合てのげわそにすれば

夜ゆるぬ夜ゆがらし鳥 泣き別れ

4 沖となかの渡中となかに さよ松立てて

上のぼり下くだりの 船を待ち

◇ 共通歌詞

◇ 八月はちがちぬ節せちや より戻むどうり戻むどうり

吾はたちきや二十歳はたちごろや な何時いちむ戻むどうる

◇ 吾はたちきや二十歳はたちごろや 夜ゆぬ暮ゆれいどう待ちちゆる

何時いちが夜ゆぬ暮ゆれいてい 吾ぶ加那見ぶりゆり

◇ 吾ぶ加那見ぶり欲ぶしやや 吾ぶぬやさねなりゆり

さねなていも汝なきやや 拜うがみ欲ぶしやぬ

◇ 拜うがみばどう知うがりゆり 拜うがまだな知うがりゆむい

拜うがでい面影うがぬ 立うがたばきやしゆり

◇ 面影や立ちゆり しぎららぬ時や

仕事までしごとまでいうしめてい おぼらじきゆり

◇ おぼらゆり月や まどまどどう照りゆり

加那が窓開けてい 忍しぬでいいもれい

◇ 忍ぶ山道に 骨や散らせども

吾が胸ぬ内や 散らしならぬ

◇ 吾が胸ぬ内や 煙管竿心きしりちおびころ

内焦うちくうがれいとうゆでい 他所よそや知らぬ

◇ 他所よそ知らぬうちや 隠れい道いもれい

他所よそ知れいていからや 真道まみちいもれい

◇ 汝唄なあらしやぎいてい 吾唄あらしやぎいろ

互たげにあらしやぎいてい よさりそしら

◇ あらしやぎいてい汝なきやてう 遊あしぼやぬ時とうきや

今なまぬほこらしやや 踊うごごうれいばどうゆれいば

◇ 今なまぬほこらしやや 踊うごごうれいばどうゆれいば

白しら枯かれぬ花ぬ 散るかなりゆり

◇ 白しら枯かれぬ花ぬ 水むじかけてい活いける

情なさけ酒さけみしよし 活いけていたぼれい

◇ 情酒なさけさけみしよし 行き欲ほつしやややししが

汝なぬがきじるめぬ 居うらばきやしゆり

◇ 吾なまぬや今いまがれいや きじるめや居うらぬ
お情みしよしどう きじるめめさる

◇ きじるめばなしゆてい なちか声聞こゑかし
うれいが鳴る時ときや そそや知らぬ

◇ うれいがかりがかり 真惚まふれい惚ふれいがかり
汝なきや連ちれいてい遊あしでい そそやなさぬ

◇ そそななきやすだに かくしばどうゆれいば
けしはだぬ風に もまれいまさり

◇ けしはだぬ風に もまれいばどうゆれいば
いきやかなしやあていも いらぬそしら

◇ いきやかなしやあていも胸や染すでいきやしゆり
吾ぬやくさましに あぎ名とうりゆり

◇ 吾家わやぬくさましに ちごろ水むじいしてい
うれい分けてい分けてい 忍しぬでいいもれい

◇ せち 節とう柴挿や しばさし 七日隔むりゆり なぬかふぞ

きもさげぬ加那や 何隔むりゆり ぬふぞ

◇ きもさげぬ加那が 遺言いしやるいのちぢぢや

おもむらしむらし 涙なだどうなりゆり

◇ けしはだぬ風に もまれいばどうゆれいば
いきやかなしやあていも いらぬそしら

◇ いきやかなしやあていも 胸すや染でいきやしゆり
吾ぬやくさましに あぎ名とうりゆり

◇ 吾家わやぬくさましに ちごろ水むじいしてい

うれい分けてい分けてい 忍しぬでいいもれい

◇ 節せちとう柴挿しばさしや 七日なぬかふざ隔なぬかふざむりゆり

きもさげぬ加那なぬかや 何隔ぬふぎむりゆり

◇ きもさげぬ加那が 遺言いしやるいのちぢや

おもむらしむらし 涙なだどうなりゆり

◇ 思しぐとうやおくさ 教ゆしる人ちゆや居うらぬ
吾が胸ぬ内に 思したばかり

◇ 惜あら八月はちがちば 新冬みふゆなししぬき

お酒あたらまし ししやげなまし

◇ お酒欲ふしやねらぬ 真神酒欲まみきふしやねらぬ

昔けさぬ親うやふじぬ ししゆけ始め

◇ 昔けさぬ親うやふじぬ 島たていぬ悪さ

加那が島吾島 間切まぎりり分かまし

◇ 加那が島吾島 間切まぎりり分かまされいてい

な夜ゆぬ暮くれい暮ぐれいや しぬきとうりゆり

◇ しぬきいきじまに 吾が落^うていしゆん目^{むい}涙^{なだ}

露^{ちゆ}ふどうぬ里^や 知^らせ欲^ぶしやねらぬ

◇ 露^{ちゆ}ふどうぬ里^や 知^らせばどう知^りゆり

知^らさだなしゆてい きやさり知^りゆり

◇ 行^きはてぬどうんが けしはちぬどうんが

後^が後^がれいやねらぬ 来^や年^ね来^くれいば

◇ おぼこりどうやゆる 果^か報^ほさらどうやゆる

来^や年^ねぬ稻^いがなし 畦^あ枕^{ぶし}

◆ 雑の部

◆ 崎々ぬ長さ 摺子崎長さ

しろこ

女陰ぬ崎ぬ長さ 真向ぬ女童きや

ひ

まっこ

めらべん

◆ 貝殻くわ貝殻くわ 何処ちがいもる貝殻くわ

けんげら

けんげら

だー

けんげら

真向ぬ女童きやぬ 陰毛かきが

まっこ

めらべん

ひんくうぎ

◆ 真向ぬ二才きやぬ ゆむ腹見りば

まっこ

ねせん

わた

三儀山瀉原ぬ 大腹草河豚

さんぎやまかたばる

ふーわたぶきな

◆ 磯いしよぬ割れ割れや とうぎやごろぬ立ちゆり

いいきや女陰ひぬかまち 吾まきや男根ま立ちゆり

◆ 吾が見しいむえやる夢いむえや 女陰ひとう男根まぬ戦いくさ

男根まに挿し負まけてい ゆだり垂まらすんど

◆ 汝なきやがする唄なや 吾なぬや耳みに入みらぬ
さぶちとうり分なけてい 聞なかしたぼれい

小宿の年中行事

1月1日	正月（若水汲み・三献・年頭廻り）
2・3日	大工祝い・（前年に新築のあった家のお祝い）・船祝い
7日	七日節句（七日雑炊）
☆	年日祝い（年祝）・・・正月十二日までの間の、その年の干支の日
11日	子正月
14日	ナリ餅
16日	山神様祭
17日	恵比寿祭
20日	ヒキヤゲ（いも飯・正月納め）
3月3日	浜下り・雛祭
4月初午	ハブ祭り（はつうま）
初壬	アジナネ（虫よけ）（はつみずのえ）
5月5日	端午の節句
15日	お月待ち
23日	お月待ち（旅の安全祈願）
6月初戊	ウシケー（はつつちのえ）
17日	六月燈
7月7日	七夕
13日	迎え盆
15日	送り盆
16日	盆明け
8月初丙	アラセチ（新節）・八月踊り（はつひのえ）
7日後	シバサシ（柴挿）・八月踊り
15日	豊年相撲・八月踊り
庚申	カネサル（かのえさる）・八月踊り
5日後	ドンガ・八月踊り
9月9日	願戻し
12月31日	年忘れ・大晦日